

登録コード	E2575900	開講年度	2026				
授業科目	日本美術史					担当教員	小野 文子
英文授業名	History of Japanese Art					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生	
講義室	教育N 204 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	日本美術の歴史について学び、日本美術史の形成についての歴史観を理解することはできるようになる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	教育の現場において日本美術やその歴史観のん形成のあり方について理解することができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	明治維新後の日本において、西欧における「美術」という概念を取り入れ、「日本美術」や「日本美術史」について自らの概念を形成していった。西洋において支配的だった美術の概念を、日本が対外的な世界観の中で取り入れたことで生まれたことを概観する。						
(5)授業計画	第1回： ガイダンス 第2回：幕末：西洋との出会い 第3回：新たな視覚体験 第4回：明治維新と日本の近代化 第5回：万国博覧会と美術行政 第6回：万国博覧会とジャポニスム 第7回：殖産興業と輸出工芸 第8回：造語としての「美術」 第9回：「美術」をめぐる論争 第10回：「日本美術」のジャンルと用語の形成 第11回：「日本画」と「洋画」 第12回：美術行政 第13回：美術学校と美術教育 第14回：現代へと繋がる「美術」 （授業アンケート） 教育実習を理由とした欠席については、授業において指示する						
(6)成績評価の方法	レポート ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	事前事後の学習については、自ら学ぶべき課題を設定し、資料収集やその整理、読解、分析を行うこと。						
(9)履修上の注意							
(10)質問、相談への対応及び連絡先	oayako@shinshu-u.ac.jpに連絡のこと。						
【教科書】	使用しない。						
【参考文献】	授業中に紹介する。						